

平成18年2月10日
< 問い合わせ先 >
海事局 総務課
TEL : 03-5253-8611(代表)
内線 : 43155、43163

第1回「モーターボート競走事業活性化検討委員会」の開催結果について(概要)

1. 日時

平成18年2月10日(金) 10:00~12:10

2. 場所

国土交通省特別会議室(中央合同庁舎3号館4階)

3. 議題

- (1) モーターボート競走の現状と課題について
- (2) 検討フロー及び検討の方向性について
- (3) 今後の進め方について

4. 出席者(敬称略、順不同)

蔭山幸夫 社団法人全国モーターボート競走会連合会会長
喜多條忠 作詞家
境 忠宏 淑徳大学国際コミュニケーション学部人間環境学科教授
笹川陽平 財団法人日本船舶振興会(日本財団)会長
杉山雅洋 早稲田大学商学学術院教授
竹内俊夫 全国モーターボート競走施行者協議会会長(青梅市長)
松田英三 株式会社読売新聞社論説委員
松田公春 株式会社電通常務取締役
松原 聡 東洋大学経済学部教授
廻 洋子 淑徳大学国際コミュニケーション学部客員教授
星野茂夫 国土交通省海事局長

5. 議事概要

- はじめに、座長に杉山委員が、座長代理に境委員が選出された。
- 議事(1)(2)について、委員から出された主な意見は以下のとおり。
 - 社会構造の変化を踏まえれば、ナイターの開催の拡大など、多くの人が参加できるような工夫も必要。
 - 公営競技は3セク事業の運営とは異なり、収益をあげることが前提であって、赤字を税金で補うことがあってはならない。各場、各施行者の経営状況について分析を行うことが必要。
 - モーターボート競走自体をどのような商品と捉え、どのマーケットに売り込むかを明確にすることが必要。また、利用者との接点の拡大も課題。
 - これまでの様々な努力によっても売上は大きく低下してきており、モーターボート競走自体の商品特性を大きく変えることも必要ではないか。
 - 売上向上のためには、ファンの要望を取り入れたサービスの充実が重要である。
 - 収益の改善のためには、資産効率の向上、売上高利益率の向上といった観点から課題を抽出し、制度的な見直しが必要なものと運営の工夫によって対応できるものに整理する必要があるのではないか。